

# 令和4年度 第1回 とみやわくわくミーティング 実施報告書



## 実施状況

テーマ	市民活動について ～私たちの活動の理想の姿～	
日時	令和4年7月29日（金）午前10時00分～午後12時00分	
場所	富谷市役所3階305会議室	
座長	宮城大学 事業構想学群 准教授 佐々木 秀之	
参加者	一般参加 9名 富谷市 6名（市長、総務部長、市民協働課長、市民協働課3名）	

時間	内容	状況写真	
10:00～ 10:25	村インテ-ション ① 自己紹介		
10:30～ 11:40	ミーティング ①市長あいさつ ②ミーティングレクチャー ③情報提供 （市民協働課） ④意見交換 ⑤市長感想 ⑥集合写真	  	  

## 市長あいさつ



みなさんおはようございます。本日は週末のお忙しい平日に、とみやわくわくミーティングにご参加いただきまして本当にありがとうございます。なかなかコロナ禍が収まることない状態で、本市におきましても、昨日 120 人という、1 日で 120 人は過去最高で、7 月は残り 3 日残っていますけども、昨日の段階で、1,007 人ということであります。これまでで、2 月の 388 人というのが過去最高ですけども、今月だけで 4 桁、1,000 人を越すということでございます。やはり、今回のオミクロンの威力というか、大きさを感じているところでございます。なお、病床使用率が 50% を超した地域、仙台医療圏もそうでございますが、国で今日の午前中、協議をして、県単位で対策をとらなければという動きも出てきたところでございます。そういった中ではございますが、基本的にはまだ行動制限を行わないということで、今日のこのわくわくミーティングにつきましても、感染対策として、しっかりと換気を取りながら、距離も置きながらということで、あとなお、時間短縮ということで、当初の予定時間よりも短い時間で実施させていただきたいところでございますので、どうかご理解いただければと思います。

このわくわくミーティングにつきましては、これまで、市民の皆さんの声を直接市政に反映するためということで、毎回いろんなテーマを設定させていただいておまして、市民の皆さんにご参加をいただき、ご意見をいただいております。今回のテーマは市民活動についてということでございます。市民活動を皆さんそれぞれ、いろんなボランティアも含めて、市民活動に取り組んでいただいているわけでございますが、本市におきましては、後ほどご説明があるかと思っておりますけども、令和 2 年度に「わくわくつながるわたしたちのまちづくり 富谷の協働ガイドライン」を策定させていただきました。今年度はその支援のあり方についてということで、審議会でいろんなご意見をいただいたところでございます。それをしっかりと令和 5 年度の実行に向けて、今準備を進めているところでございます。この富谷の協働ガイドラインは、わくわくミーティングの座長を毎回務めていただいております。佐々木先生にずっとご指導いただきながら、策定をさせていただいたところでございます。今日も佐々木先生に座長として、進行等含めてお力添えをいただきながら、皆さんの声をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。改めて本日は誠にありがとうございます。



## ミーティングレクチャー（座長）



先ほど市長のご挨拶にもありましたとおり、いつもですと、この形式ではなく、学生も入りながら複数のグループに分かれて意見を出しあい、その内容を発表して、みんなで意見交換をするということを進めてきました。今日は、大声出さなくてもいいようにマイクを配置してもらっていますので、ワイワイとできる範囲でやっていければと思います。時間も短縮になりますが、言いたいことは遠慮なく発言していただければと思います。

最初に、この度作成されましたガイドラインにつきまして、少しご説明をさせていただき、レクチャーに代えさせていただきます。ガイドラインでのテーマとなる協働は、SDGsの中の一つのゴールであるパートナーシップとも言い換えることが出来るように、現在、世界的な課題になっております。富谷市の協働も長年にわたって検討されてきており、その経緯が、ガイドラインの中にある年表に示されています。16ページをご覧ください。若干、協働について、言葉の整理をしたいと思えます。市民活動を展開するにあたって、この協働という表現は、必ず出てきます。一方、この中には、市民協働という表現もみられます。ここに、協働の歴史をみることができます。日本において、協働という表現は、1990年代、平成期に登場してくるのですが、当時は、市民協働という言葉が多く使われていました。ここでの市民とは、富谷市の市と、地域の皆さん、つまり民間の民、この二つの主体が協働するという意味であって、この意味で市民協働という言葉が普及していきました。そこにおいて、2011年東日本大震災が一つの契機となり、この頃から、各地の自治体で、市民協働という言葉から市民を抜いて、協働という言葉が使われてきています。それはなぜかという、この協働の担い手が、これまでは市役所と地域の皆さんだけとされてきましたが、例えば、被災地の沿岸部をみても、行政も、地域の皆さんも被災した中、まちづくりの担い手となったのは、行政と住民だけでなく、企業やNPOも重要でしたし、外部からの支援も不可欠でした。若者も頑張ったと思えます。このことは、担い手不足という地域課題を抱える地方の自治体にも当てはまりました。そこで、多様な主体のパートナーシップ、連携が必要だということで、市民協働から、協働に言葉が変遷してきたのです。富谷市においても、市民協働を平成の段階からじっくりと進め、市に移行する段階で市民協働課を設置し、昨年度、協働のガイドラインを作りあげました。やさしい記述となっておりますが、最先端のガイドラインであり、地域の皆さんで作上げたことは評価されると思います。

市民の皆さんで作上げた象徴がタイトルかと思えます。「わくわくつながる わたしたちのまちづくり」、このタイトルを決める過程では、このわくわくミーティングでも話題とされ、皆さんで一つ一つ言葉を考え抜いて、決めていきました。一つ一つ、言葉を紡いでいく中で、「わくわくつながる わたしたちのまちづくり」に落ち着いたわけですが、半年以上かけて紡ぎだした、市民の皆さんの言葉です。中身についても、手に取ってくれた方が読みやすいように、行政の皆さんとか、あるいは政策に精通している方だけじゃなくて、学生であっても、読んで少しでも関心をもってもらえるようにと、工夫を凝らしていきました。ひらがなが多用され、文字のフォントサイズも大きくなっていますし、全体的に手づくり感がにじみ出ていますが、こうした背景があつてのことなのです。

本日は、このガイドラインの内容に加えて、皆さんが、先ほどの自己紹介の中でお話いただいた、町内会の現状や、市民活動の現状などを織り交ぜながら、富谷の「わくわくつながるまちづくり」に

ついて、みんなで考えていきたいと思えます。ガイドラインの構成は、目次に示されている通り、まず、ガイドラインの目的と、現状と課題があり、そして富谷の協働についての基本的な考え方と協働の推進策が提示されます。なお、このガイドラインの作成の当初は、協働のルールを作りましょうということから始まりました。しかし、作成する過程で、ルールとなると、どうしても活動に対する規制や活動への参加に対する強制のイメージが出てしまうという皆さんの意見があつて、考え抜いた末に、ガイドラインとなったということも付け加えておきます。

ガイドライン中の太字で示されたキーワードを確認していきましょう。まちづくりにはいろいろな立場の人々が関わっています。みんなで楽しく住みよいまちをつくっていきましょうとあり、これがねらいになっています。そして、富谷市が目指す協働のまちづくりは、富谷市に関わるすべての人とあり、これはまさにパートナーシップですね、まちを愛し、力を合わせて、日本一の住みたくなるまちを作っていきますということ、皆さんが考えたものです。そのあとは、市の現状とか、課題ということになっています。ここでは、もっとつながりを作っていったらいいんじゃないかという意見が多く出ました。そしてこれがタイトルにも反映されているわけです。5 ページでは、協働という表現について、市民の皆さんが、富谷なりの解説を加えました。協働はいろいろな立場の人たちが同じ目的のために役割を分担し、お互いを尊重しながら、協力して活動することですとあります。学術では、この3倍ぐらいの分量で定義されますが、3行で、わかりやすく、現実的な表現で示されています。加えて、写真とともに、事例が掲載されています。清掃活動に始まり、街かどカフェ、配食サービス、子ども食堂、西成田の運動会、学校と地域と家庭をつなぐ取組です。6 ページでは、協働を進めるための概念図が示されています。担い手として、市民や地域コミュニティ団体、市民活動団体、公益法人、事業者、市が例示され、こういった人たちが、みんなで意見を出し合いながら、地域の課題や行政の課題を考え、行動に移していこうという図です。8 ページ、9 ページでは、例えば、富谷に来て、市民活動を始めたいという方が、最初の半歩目をどう踏み出したらいいかということがわかりやすく示されています。こういったきっかけづくりを大事にしたい、一歩踏み出すというプロセスを大事にしたいということで、皆さんの経験をもとに作成されました。10 ページ、11 ページでは、様々な協働の形ということで、4つの事例が掲載されています。

なお、このガイドラインの作成後、さらに具体的に、どのように支援が必要かということで、答申書の提出も行っています。それでは、事務局、市民協働課の方から、追加して情報提供をお願いしたいと思えます。

それでは私からお手元に配布させていただいております、「市民活動について ～私たちの活動の理想の姿～」としている資料に沿って説明させていただきたいと思っております。

はじめに、富谷市の考え方についてご説明申し上げます。富谷市は、総合計画基本構想において、住みたくなるまち日本一を目指し、健全なまちづくりに向けて、市民みんなが協働するまちづくりを実現することを目標にしています。都市化が進み成長を続けている中で、まちの魅力と持続可能性を高め、少子高齢化や災害発生時などの社会の変化に柔軟に対応していくため、世代や立場を超えた多様な人々がつながり、みんなの知恵と力を生かす、オール富谷の体制で、誰もが住みたくなる、そして将来にわたって住み続けたくなるまちづくりを進めていきます。

続いて、富谷市における市民活動を支援する主な支援施設等についてご説明申し上げます。2018年に新たな市民の活動拠点として開設された、富谷市まちづくり産業交流プラザ、とみぶらにつきましては、富谷宿を中心に、コミュニティビジネスなどに取り組む活動などの支援を行っています。次に、富谷市社会福祉協議会が運営するボランティアセンターにつきましては、福祉、教育、地域おこしなど、様々な分野において、地域の課題を解決する市民の自主的、自発的な活動の支援を行っています。次に、市内に6館ある公民館につきましては、市民のサークル活動や地域活動を中心に支援を行っています。最後に、市民協働課につきましては、施設ではございませんが、町内会や市民活動団体など、市民の皆さんの活動や協働を推進するための支援を行っています。

続いて、市民活動を行っている各種団体の状況についてご説明申し上げます。町内会については、現在47団体ございまして、うち1団体が法人格を有する地縁団体、認可地縁団体となっております。NPO法人、いわゆる特定非営利活動法人につきましては、7月19日現在、市内7団体となっております。富谷市ボランティアセンターに登録されている団体人数は、3月末現在、55団体、874人となっております。富谷市まちづくり産業交流プラザ、とみぶらに登録している富谷塾生は、7月19日現在、126名となっております。また、市ホームページに掲載されている公益的な活動を行う市民活動団体等は、4月1日現在、46団体となっております。

最後に、市民活動への市の支援の取組についてご説明申し上げます。先ほど佐々木先生からもお話ありました、お手元に配付させていただいております、本市において令和3年3月に策定いたしました、「わくわくつながる わたしたちのまちづくり -とみやの協働ガイドライン-」に基づき、協働のまちづくりを推進しているところでございますが、その中で、市民の皆様が活動しやすい環境づくりの醸成が示されております。このことから、今年6月に総合計画、協働のガイドライン、現状の課題を踏まえて、市における支援のあり方、主にソフト機能について、富谷市協働のまちづくり推進審議会から提言をいただき、令和5年度に支援方針の取りまとめを行い、具体的な支援を実施してまいりたいと考えております。市民活動の理想の姿や、市民活動が活発に展開され、持続可能な活動としていくための皆様のアイデア、提言については、今後の支援方針の策定に生かし、反映してまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。私からの情報提供は以上となります。



## 意見交換

### 参加者①

行政区長会議なんかでも、今課題となっているのは、町内会離れていうのはよく耳にいたします。私どもの町内会はたった1軒だけなんです。町内会離れていうのは、それも嫌で離れたんじゃない、大分前の話で、何かトラブルが起きて、それでやめたということで、町内会に不信をもってやめているわけではないんです。なので、今、私は町内会離れを悩んでいないんです。基本的な町内会の規約を見ても、当たり前なことなんですけれども、すべて住民を中心とした、考えた規約を作っているんですね。ですから、あまり不自由はないと思うんです。その他にもう一つよく言われるのは、来年度の班長さんが辞める、出てこない。これはうちはそうじゃなくて、極端なこと言えば、いや私がやるよ、次の会長さんやるよっていう人が何人もいます。ですから後継者というのは心配ないなと。私のところは55班の班長と、班長のほかに役員と選んで、その中からその部長さん、副部長さんを役員と呼んでおります。年度初めにそれを決めるときに、役員っていうのはちょっとやはり行動が伴いません。班長も伴うんですけど、班長プラス役員の行動が伴うものですから、高齢者など、できない人は事前にいろんな情報くださいということで流しております。2か月くらい前から、一応、前班長とはいろいろな形を通して話しております、1年に5件ぐらいは、班長は受けられるけど役員は受けられないと。事情は高齢だとか、健康上の問題とか、単身赴任に行っていてとかっていうのはいろいろありまして、事前にそれをジャッジすると、当日トラブルなく本当に1時間ぐらいで、55班、専門部の部長も決まるような状態なんです。いろいろ事情はあるんでしょうけど、手順をきちんとしておくと、案外揉め事なく町内会は運営できるなと私は考えておりますので、良いことだけ言って終わりますが、そのような状況になっております。

### ファシリテーター

ありがとうございます。今、町内会離れという全国的な課題もみられる中で、事前に情報を流してもらったとか、様々な工夫をされてきたという話題を出していただきました。そういったことが、コロナ禍の中でも、機能している要因かと思われる情報提供でした。それでは、次の方、よろしく願います。

### 参加者②

私はいろんなことをちょこちょこっとやっております。ボランティア活動、ボランティアセンターにも登録しております、ボランティアも、ボランティア友の会っていうのもあったんですけども、高齢化により解散してしまいましたが、そういうこともやっています。町内会での動きといいますと、健康推進員と民生委員をやらせていただいています。とちの木町内会の中で、何か手伝えることはないかということで始めて、30年ぐらいお手伝いさせていただいております。健康推進員については、今、毎週月曜と水曜の午前中にリフレッシュ教室と称しまして、皆さんとゲーム等をしたり、おしゃべりをしたり、昔遊びをしたりというのをやっております。ほとんど12、3人で毎回参加されます。ただ、今ちょっと、町内会館も市長さんのお声掛けのおかげで、改装が大分進みました。おかげさまで綺麗になってきました。改装中は会館が使えないので、青空体操教室と称しまして、やっておりますけど、暑いですよ。あんまり暑いときにやって具合悪くなったんではいけないっていうので、ちょっと今、ぽつぽつと、休み休みやっているところです。他にとちの実会というボランティアの会を作っております。ここが30年以上になるんですけど、そのボランティアは町内会の行事等とかにお手伝いを主にする、ボランティアの会です。その他に社協さんの依頼があったら、ハンドベ



ルの演奏をしに行くとか、夏祭りのお手伝いに行くとか、そういうお手伝いさせてもらっています。町内会に対しては、この間の3.11のときのような事態があった場合には、炊き出しのおにぎりなどを作ったりとか、とにかく行事にはすべて全力で、メンバー今8人しかいないんですけども、そのメンバーで町内会と一緒に取り組んでいます。その中で私、流れて民生委員もやらせていただいていますと、やっぱり町内会とつながっております。あと、いろんな情報も入ってきますし、地域の方のことも入ってきます。それをまた逆に町内会の会長さんとかにお伝えしたりできて、一人で見守るのも大変なので、町内会の役員さんにも多少声をかけて、見守りとかいろいろしております。健康面と、生活の安全面でできればお声がけしたいなと思っていて、犬を飼っているんですがもう何十年もの間、散歩をしながら、散歩兼パトロール兼声かけで、町内のお節介おばさんで通っております。変わりないですかっというような声掛け。普段の声掛けとか、そういうのがとても大事だなというのが、何十年か経ってやっとわかってまいりました。みんな高齢になったときに、ちょっとここ調子悪いんですけどどうしたらいいのとか、介護受けるのにどうしたらいいのとか、声かけていただいて、声かけていただきやすい関係になっているので、ちょっと答えられる部分、お手伝いできる部分はいろいろお手伝いさせていただきます、暮らしております。地域のお節介おばさんでございますので、よろしくお願いいたします。

#### **ファシリテーター**

ありがとうございます。健康活動団体、あるいはボランティア団体の情報をいただきました。多くの経験、知見からの情報提供でしたが、健康推進員を30年も続けてこられ、地域のお世話役をされてこられた秘けつには、そこにはワンちゃんとの散歩があったということがあるように思いましたが、いかがでしょうか、それがポイントになっていましたか。

#### **参加者②**

はい、そうです。わんこの散歩と学校のPTAの会長とかもやらせていただいたんですけども。とちの木もその頃は新しい団地だったんです。皆さんのこと、地域のこと知るためには役員をやることだったということを思ったんですね。子どものことを知りたかったら学校で役員をやる。そうすると、こちらが学校に行けるので、子どもの顔も見える、先生方から情報ももらえるってことで、積極的に役員をやっておりました。そういう形で、みんなの声が伝わってくるようになったかなと。わんこも三代目になるんですけども、1人で歩くとやっぱり声かけづらいと思うんですけど、わんこがいると、ワンちゃんかわいいねとかそういうのから始まって、小さな子どもさんから高齢の方まで声かけやすくなりました。それでずっとつながって、4時になったらどこどこを通るからこういうことを聞きたいからって待ってる人もいます。そういう感じで大体定期的な時間に、今は朝は嫁がやってくれるので、夕方だけ声がけしながらやっております。1日1時間くらい、下手すると2時間くらい、歩いているというか止まって話してる時間が多いんですけども、なんかそういうことも地域とつながること、地域の皆さんのことを知ることにつながったのかなと思います。

#### **ファシリテーター**

ありがとうございます。活動の秘けつを教えてくださいました。加えて、町内会のサポート、つながるということが重要だということもお話をいただきました。それでは、またマイクを回していきたいと思います。



### 参加者③

東向陽台の場合は、私が知る限りでは、550世帯の町内会だったわけなんですけど、コロナ禍の關係と、高齢者の問題も含めましてここ3年くらいで世帯数はちょっと減りました。それと町内会への入会者について、若い方も移住されたんですけども、町内会ということに対しての認知度が低いのか、個人主義的な考えで入らないのか、お金払いたくないのかとか、そういうような問題あるかと思うんですが大分減りまして、また従来の方々の間で、高齢化して介護施設に入居されて、それも一人暮らしの方々が多くて、そうすると、その家が当然、空き家になります。そうすると、町内会費をいただく方法はございません。それで、町内会を脱会される方が相次いで、一時減りました。それで最近、若い夫婦っていうのかな、何組かの方入ってこられて、小さい子を抱きかかえながら入会していただいたというのが増えてきましたんで、これから折り返しの時点、時期になるのかなと期待しています。結局私も資料とか町内会に関するものを、その方々にお渡しするようにしながら、町内会をここ何十年、今年50年目なんですけど、50年間の歩み的なものをわかってもらいたいなと思いつつ、お渡ししております、理事会などと接点、接触を持とうとしている段階です。それから富谷市でも、団地造成された頃を第一回目とすると、当時、頑張って一生懸命町内会を盛り上げてくれた方々がもう大分80前後から90なってるもんですから、その影響もあり、やはり高齢化により、ご自分たちに活動する馬力もなくなってきてるかと思われまふ。高齢化という問題、認知症の問題、全部今きている状態なのかなと。もう日常、毎日救急車の音が絶えない状態なんですね。そういう地域なもんですから、大体高齢化率が数年前、40年前にチェックした時に30数パーセントぐらいかなと計算したんですよ。ちょっと富谷市全体では、かなり若いレベルなんですけれども、私の町内会に関しては、そうじゃないと。一番高い範囲、比率なのかなと、そういう問題を抱えています。ですから役員会は理事会とかそういうのはありますが、コロナ禍の問題で大分控えてはいるんですが、そこで発言されてくることの内容が、総合的に考えた発言ではなく、ご自分の周りの起きた本当の微々たるスポット的な意見が強調されてしまったり、それに意見を及ぼす内容が、反映することがちょっと違うんじゃないかなというような内容が多くなってきた部分。それから、発言したんだけど、認知気味なのか、もう忘れてしまったというような、どこまで話し合いが継続できるのかというような問題も時々見受けられます。なんとなく全体的にバランスが、しっとりした落ち着いたまちですが、バランスが悪いような、雰囲気も今生まれております。それを今、調整しながら若い人たちの活動参加を促している状態なんです。今や、それぞれなんでしょうねという状況なんだと思われまふ。それが私の町内会の内容です。



### ファシリテーター

ありがとうございます。今、富谷市はいろんな団地で構成されていますけれども、早くできた団地ならではの課題となります。課題と、そしてもう一つ希望ですね。地道な調整で折り返しのポイントにきているということで、ぜひ、そういった知見は、もちろん富谷市だけではなく全国的な話題かと思われまふので、蓄積され、活用されていくのが非常に重要かと思つて聞かせていただきました。

全国的に、団地が造成されていったのが高度経済成長期ですから、多くの課題が出てくる時期に入ってくるのかと思います。

#### 参加者④

今日のテーマが市民活動についてということですので今まで町内会の話が主体でしたが、ちょっと違う視点でお話をさせていただきたいと思います。まず富谷市の今掲げてる目標としては、日本一住みたくなるまちづくりというのが、大きな目標になっていると思います。それで市民協働課の協働という文字を辞書を引いてみたら同じ目的に向かって協力しながら働くと、要するに働きやすいまちづくりってというのが、市長の掲げる大きな目標ではないかなと思うんです。ここで協働しながら働く人たちの中には、どのような人がいるんでしょうかっていうと、いろんな職業、或いは男女の男性女性といろいろいるかと思いますが、実はですね、私自己紹介のときちょっと言いましたけども、法務大臣から委嘱を受けまして保護司を長い間やらせていただいております。ということは、町の中には、貧富の差、それから様々なその経済的困窮された方のほかに、過ちを犯してしまった方々も一緒に住んでいるっていうことをちょっとご理解していただきたいなと思います。それから、私、教育委員会の青少年健全育成会の役員もさせていただいてますけども、この犯罪ってというのは、私たちにとって非常に身近なもので、今は低年齢化と言われて小学生あるいは中学生ぐらいでも、犯罪、特に薬物ですね、これに染まっている子どもたちがたくさんおります。そして、私たちが実際に担当する対象者ってという呼び方をするんですけども、その中には、非常に若い人たちが多く、それも女性です。女性の方に多いのが特徴です。ですから、この薬物っていいますとあまり耳にしたことはないと思いますが、これも県知事から委嘱を受けまして、富谷市では今6名おります。乱用防止指導員という方がおりまして、黒川地区では約20名で乱用防止に尽くしています。私たちは学校で講演したり、それから、各広報活動を一緒に行うんですけども、やはり町内会の中で、うちの町内会だけかもしれないけど、犯罪予防、あるいは、薬物に関しても、認識が低いなっていうのを感じています。今ここに町内会長の方が何人かおられますけれども、この犯罪予防とか、薬物とか、そういうものに手を出してしまった方が、どれだけいるかっていうことを把握されている町内会長ってどれだけいるのかなというのを、私は自分の町内会を見ても、ちょっと疑問に感じております。ですから、私は特に高齢者も含めてですが若い人たちに、薬物関係に手を染めないようにしてあげるためには我々大人がやはり範を示して、指導といいますか、PRしていく必要があるのかなと思っていますので、どうぞ町内会長の皆さん、それから民生委員をやられてきた皆さん、いろいろあると思いますが、力を出し合って、子どもたちを私たちの手で守っていけたらなと思います。

#### ファシリテーター

はい。ありがとうございます。先ほど、自己紹介のときもいろいろお話をいただいた中で、更生保護と薬物の話題を出していただきました。今、私も大学で学生と関わる中で、コミュニケーションの取り方の変化に直面している感があります。電話をするというよりは、いろいろなSNS、例えばLINEでいろいろなコミュニケーションが解決する中で、一方で、解決が難しくなるという現状もみられます。そういったコミュニケーションツールの多様化の中で、薬物や犯罪にもつながっていくというケースも危惧されるのでしようし、その辺をどうやって見ていくのかというのは現場でも課題になりますけれども、こうした話題も町内会でも共有していくということが重要だという、アナウンスだっと思います。これも市民活動という意味では重要な観点だと思います。SDGsでは、誰一人取り

残さないという概念が提示され、各所で使われており、最も重要なことなのですが、現場に目を下ろしてみると、最も難しい部分なのかなとも思っております。  
それでは、次の方にまた情報提供いただければと思います。





## 参加者⑤

私も東向陽台の町内会の理事に入ってるんですが、実は8年ぐらい、仙台メディアテイクに勤めてましてまさに市民活動とか、情報の集約拠点ですけど、その時からよく言われてるのは、庁内会議とかですごくいい祭りがあるとか、活動があっても、その情報に伝わらないっていうのがあって、全部紙ベースになっていきますので、それが仙台市でもあったんですけど、その時私たちがやったのが、骨プロっていう、骨を通すプロジェクトっていうのをやったんです。庁内の郵便システム使って、チラシ持っていけば、他の施設に撒いてくれるというものです。そうすると今、公民館がありますから、公民館単位で回してもらおう。だから、町内会のお祭りとか集まりがあれば、公民館に持っていけば、それを他の公民館に渡してくれるというシステムがあると、いちいち回らなくても全部回ります。そうすると、公民館に町内会の情報が全部集まってきて、その情報も、全公民館に回るっていう。当時、私はその紙をもらって、それをスキャンして、Webであげてました。そうすると、Web上で、若い人が検索したときにもそのチラシの情報が見れるというようなことをやっている。情報をアナログとデジタル両方で皆さんに見えるようにしてあげる。お互いにすごく町内会といいコンビでやってるんですけど、それが皆さんに伝わっていくっていう。私も、東向陽台の町内会の理事会のときに、最初に入ってきた当初の人とお話したときに、めちゃくちゃいろんなことやったんだよっていう話を聞かされて、やっぱり入ってきたばかりの頃って、コミュニティ作りたからすごい色々活動されてたみたいです。飲み会やったり、バーベキューやったりとかって。やっぱり段々入ってくる若い人たち、新しく明石台に入ってきた人たちなんかは、入ってくる時にはものすごくコミュニケーション高いんですけど、だんだん長いと、だんだんこうしなくなっちゃってきちゃう。だから高齢化していったら、もう、通年活動、決まったことをやるみたいな感じになってきちゃうと、段々勢いがなくなって、関わりも薄くなってきちゃうのかなと思いました。それを活動するには、中心になる人っていうのが必要になって、人をつないでくれるような人、そういう人が公民館に1人、ないし2人ぐらいいると、この地域をつなぐことになる。もうこれは富谷塾にずっと関わってきた時に、やっぱり中心になるような核になるような人っていうのが、拠点にいるっていうのはすごく大きいなというふうに感じました。やっぱりそういう町内会、そこが公民館の職員さんの役割になるかも分かんないですけど、もっとフランクにいろんな企業とか、市民の方々と町内会長とかとつながるような仕組みがいいのかなと思って、その人が中心になって、やっぱり大体の共通の目的があると、そこに活動が生まれて、市民活動になってくるのかなと思います。例えば、ごみを拾うとか、植木を綺麗にしようとか、富谷塾の人の活動のようにしんまちを綺麗にするよっていう人が集まって、共通の目的を、もっとその中心になるような人っていうのを、人と人がつながるような仕組みみたいなものを、ぜひ活発にやって、ぜひ自分たちのまちを自分たちでいいものにするみたいな活動が広がっていくのかなと思います。そのためにはこのような情報っていうのは必要で、情報の共有、今、若い人紙見ないので、むしろLINEとかのSNS。今あまりLINEとかがない環境が少なかったりするんですけど、私も元々出身が亘理町の荒浜というところで、被災してもう地域がなくなってしまったと、じゃあその地域がなくなって、今、災害があったときにどうやって連絡するかといったらもうSNSしかないんです。紙で渡すっていうことはできないんです。バラバラになってしまった地域の人たちがつながっているのはやっぱりLINEとか、紙以外のツールが災害の部分とか考えてあるといいと思います。



## ファシリテーター

ありがとうございます。ガイドラインのタイトル、みんなでわくわくつながるは、まちづくりのポイントということで、考えだされたタイトルでしたが、そのつながり合いの実際について、経験を踏まえて話をさせていただきました。やはり協働ということをもみんなで考えていく必要があるということで、事前に協働の意味を辞書で調べてきたという話がありました。これも、ある意味では働きやすいまちづくりということにつながっていきませんが、いずれにせよ、どういった活動するにあたって情報がないと動けないということでした。骨プロって懐かしいですね。私も久しぶりにその言葉を聞きました。これは仙台市の市民活動の一つの象徴でした。情報をいかにみんなで共有することができるかということで、そこに骨を通すプロジェクトという意味でのネーミングだったと思います。これは全国的にもモデルにされたものであり、実際にそれを担っていた方がこの場にいらっしやるとは驚きでした。骨プロの時代は、チラシが主流でしたが、現在の SNS 時代において、ややもすると情報が限定される状況下において、新たな骨を通すプロジェクトを考えるタイミングなのかなと思って聞いていました。

## 参加者⑥

市民活動の今回のこの話があったから、何を話したらいいのかなと思って、いろいろ考えてきたんですが、町内会から私が、ちょっと伺ってきた話をさせていただきたいと思います。うまく伝わるかわからないんですけども、私、33年ぐらい経過している町内会、もっと詳しく言えば、33年のところと、新しく分譲中の若い世代の方々の150世帯近くいらっしやる地区と合わせて大体570世帯ぐらいの会員数になっている、そういう地域です。そこで二つの町内会が集まっているような状況なので、課題も違うところがあるということが一つなんですけれども、先ほどからいろいろな町内会さんから話がありましたように、やっぱり高齢化ということがあります。高齢化ということで私どもの町内会で今問題になっているのは、班で役員になるということについてです。例年、もう勘弁してよという意見があります。役割が2年3年に1回でまた回ってくるので負担になるというような不満があります。この75歳以上の方が、ご夫婦ともそんなふうになっているっていうのも増えてきております。そういう世帯においては、スルーしてっていうことを今なっているんですけども、その辺の運用が厳しくなってきたという状況にあります。その改善とか体制とかいうのをどう考えていくかということがある。そういう問題は5年ほど前から出ていて、改正とかもしているんですけども。これがまた、そういう問題があるって、こういう風に変えてきたんだよ、というところの意識が、隔年で班長さんが変わっていくことによってうまく引き継がれていってないんですよね。だからそういう世代で何言うのっていうような感じで、問題が複雑になっていくというようなところがあります。ということで、そういう組織としての問題で、我町内会だけに限ったところではないけれども、町内会の組織も、もうちょっと見直さなければならぬという、感じて来ているという状況があります。それから、そんなに数が多くないですけども、実際に非会員というか、退会された方が、今年はちょっと2名ほど増えて、現在、個人的には5名です。その中でも、アパートに住んでいる人はもう本当に、ずっと入っていないという人もおるんですけど、そういう状況の中で、今年になって、班長さんが私に町内会に入っているメリット、デメリットって何ですかねというふうに聞かれました。会長さんどう思われますかという話で。メリット、個人的に言って、ないですよと答えました。そうするとお尋ねになった班長さんも、そうですよねとなって。そういうことが数人ということをもその班で言っていたので、三役会を開いてどうしたものかなということで、まずはツーステップで考えてみる。来てもらってその理由をまず理解するというのも大事だということで、私なんかすぐ

そういう対応を考えたんですけども、やっぱりそんなふうに対面で聞くとかしたらプレッシャーなる、だから情に訴えて、その方々の子どもさんの属しているスポーツ団体等への助成金も出ていますだとか話します。そういうようなことの話の内容をもった手紙を渡すことにしています。でも退会の人ちょっと出てきたなというか、あともう一つ私、何とかしたいなと思っているんですけども、私自身が反省していることなんですけども、これは私が役員として出させていただいたときに話題となって、そうして作られたものなんですけども、社協からの援助、安心ボード、確認ボードとかありますよね。地震のときの話です。今年の3月16日に地震がありました。震度5以上だと会館に集まって、それから対応するということなんです。それはみんなで5年前に話し合っ、そういうふうにしていたことです。本当に数人の方しか集まらなくて、結局は。会報には若干そういうことを書いたんですけども、それがやっぱり引き継がれてきてない。防災マニュアルについても、ほかの町内会のところでも同じく会報に書かれていたんですね。立派なマニュアルはあるのに私1人だけしか、会長1人しか会館に来なかったっていうことで。町内会の会報にも書かれていることなのに。立派なマニュアルを下敷きにもう1回、作り直したいというふうに思っているんですが、そういうような状況ですね。深夜だけでも、ほとんどの方、かなりの数が集まって、朝の4時頃まで会館、防火センターにいたような話を聞きまして。やっぱり地域、地域それぞれなんだなという感じがしますね。だから、そこまでやっていくためには何が必要かっていうことです。町内会活動の中で、おたくのところでは何やっていますかっていうようなことで。ゆとりすとだとか、そういう集まりはしているんでしょうけど、ここに来るにあたって、何か話すためっていうことで、ちょっとあったときにいつもメンツが一緒なんですね。そうではない仕掛けっていうか、それが必要ではないかと思います。

#### **ファシリテーター**

ありがとうございます。今も、本当にメモしきれないぐらい、多くの意見をいただきました。また、町内会の方から事前にいくつか聞いてきていただいたということで、ありがとうございます。大きくはやはり体制と対応ということのお話だったのかと思います。町内会同士の情報の共有というの、先ほどの事例と似通っていて、いわば町内会骨プロみたいなもので、必要とされるものだと思います。それぞれの町内会でモデル事例となるようなプラクティスがあって、それが、例えばあの町内会でもこうだったのかとか、そういった横の情報が見れるようになるものですね。そこに、体制とか対応とかの情報があって、ちょっとほかのことを知るだけでも活動の支援になるということなのだと思います。

## 参加者⑦

皆様の話を聞いていて、ああそういえばという話を思い出したんですけれども、町内会、私も何回か班長が回って来てですね、当番を引き受けたことがあるんですけれども、近所の方を見ると結構入れ替わりが激しいので、地域に対してあまり思い入れがない方が多いですね。集金に回ったりとかする機会が多いんですけど、日中留守にしている方が多かったですりして、当番の経験者のお宅だと比較的話が通じやすいんですけれども。いろいろ町内会費だの、社会福祉協議会、赤十字、いろいろ集金する機会が多いので、全然そういうのが分からない方のところに行くと、何そのお金みたいな感じで言われることがあったり、最近では、どんどん町内会を抜けられる方々が多くなってきて、次の当番さんを探すのが大変だったって、前回私が班長やったときに報告をしました。今は他の班と合併して、まだ私抜けなくて残ってはいるんですけども、なぜ残っているかという、朝にごみ拾いをする機会があって、自分でもごみ拾いを自主的にするんですけども、やはり、地域の方と一緒にごみ拾いしながら、おはようございます、みたいな感じで声かけ合ったりする機会も必要だなということもあって、残ってはいるんですけれども。なかなかその班長の仕事をやりながら続けるっていう方も、多分大変なんだろうなと思いがちです。私は班長やっていたときにそういうこと感じたなと思い出しておりました。町内会の意義みたいなのを、入っている人、入っていない人でも、もうちょっと周知するとか、知らせる必要はあるのかなということを感じていました。私は音楽活動をやっていまして、泉で今までやっていたんですけれども、最近、イズミティが工事中で使えなくなって、歌の練習、今、どこでやっているかという、仙台市の日立システムズホールの、昔の青年文化センターだとか、勾当台にあるエル・パークに行ったりしているんですけども、富谷市の方にもそういう歌の練習で使えるような場所があったらいいなあと思ったりするんですけども、なかなか交通のアクセスが、車を持ってないメンバーもいるものですから、遠くだと松島の方から来ている子がいたりとかします。場所の問題があって、富谷市ではなかなか歌の練習ができなくて、日立システムズ、エル・パークの方に行くんですけども、ちっちゃい子がいて、子育てしながらも歌を続けたいっていうママさんもメンバーでいたりして、そういうこともあって、この活動は続けていきたいなと思っているんですけども、交通のアクセスがもっとよくなったらいいなということを感じております。富谷塾の話になるんですけども、最近、ラテン&ウォーキングの会というイベントを何度か主催していて、数名、ちょっとずつ私も参加したいということで、希望者が増えているんですけども、車がないからどうやって行ったらいいのっていうことになったときに、とりあえず私は、まだ少ないので、泉中央まで車でピックアップしに行こうと思うんですけども、そのほか、大亀山森林公園とか、そちらもいろいろ調べたらバスでもいけるんですね。富谷市民バスというのが走っているというのが分かったんですけども、泉中央からどうやって行くだらうなっていうのがちょっとよくわからなかったりとか、ちょこちょこあって。その辺がわかりやすくなると、車を持ってないという人にも声をかけやすくなるなということを感じております。

## ファシリテーター

ありがとうございます。町内会のことにも言及してもらいました。先ほどメリット、デメリットという話がありましたけど、今回もそのような話だったと思います。班長の意義って何ですかということでした。その辺も、何かこうですよと言えるのがあっていいのですが、その議論をすることが重要なかなと思いがちながら聞かせていただきました。また、音楽活動をされており、ゴスペルということでした。会場へのアクセスについての問題も提示していただきました。その課題の解決策を、メンバーで考えて、提示することも市民活動になるなと思って聞いていました。海外では、教会でゴスペル

をグループで歌っている光景を目にすることがあります。ここでは、公共施設でのお話でしたが、歌を歌いたい皆さんが、制限もある中で、どうやってその課題を解決しましたよっていうのが、生み出されると面白いですね。いいですよ、歌声があふれているまち。またこういう場にどんどん来ていただいて、今のようなご発言いただくと町内会の皆さんとの連携など、ヒントになることがすごくあると思います。では、次の方をお願いしたいと思います。

#### 参加者⑧

私は日吉台っていう団地に住んでちょうど、もう35年になるんです。それで実は5年前に、うちの孫が中学校に入ったときに、中学校1年生の中でたった1人、先生にこの団地は誰がいつ作ったんですかという質問をしたそうです。団地内に日吉台公民館というのがあるんですけど、その地域コーディネーターの方が、私の方に来て、話でいくとあなたが一番古いらしいので、日吉台団地ができた経緯を知っているんじゃないかということをお願いしますと、一人のためにちょっとお話ししてくれませんかってということで、中学校に地域活動というのがあって、そこに行ったときに話したんですけども。ただ、1人かなと思ったら、なんと30人くらい集まって。みんな興味あるんだなと思いました。いろいろ話したんですけども、誰が作って、どういう経過でこうなったと、その話したら、面白いと言ってもらえました。次もやってくださいってことで、2年間やったんですけども、今度コロナになってしまいました。またお話ししてくださいって言われて、うちの団地の中学校1年生17人をうちの会館に、計画の一環として、会館の清掃とかごみ拾いとかをやって、そのあとに、お話をしました。なんだかんだ25、6年前の話をしたんですけども、この地域は大和町と富谷市と、まとまっている特殊なところなんだと。それで、利便性はすごくいいところなんで、たとえ中学校卒業しても、他の県に行っても、必ず戻ってきてくださいと話しました。すごくいい場所で、高速道路のインターはすぐ近くにある、小学校も幼稚園も大学もすぐ近くにある。こんな住みやすい場所はないよと。だから一旦外に行ったら、よその地域はどういうとこか勉強して、戻ってきてくださいということをお話ししました。それがうちの孫が言うのには、じいちゃんの話が一番面白かったと。学校の先生からも面白かったと言われたんで、これは続けていかなきゃいけないと思いました。いろいろ町内会の問題はありますが、やっぱり子どもたちを育てるのもいいなと思ってね。やっぱり知らないことを教えるっていう楽しみも知ってたんですけども、聞いてくれる方はね、ものすごく真剣になって聞いているんです。ぜひ、卒業していつてもまた戻ってくるような、そういうまちづくりをしたいなと思っています。

#### ファシリテーター

ありがとうございます。私自身は専門が歴史経済であり、今の話は、聞いていてとても嬉しくなりました。やはり、愛着というのは小さい頃から醸成されていくものだと思いますし、お話しを伺っていて、これまで町内会のメリットは少ないよという話題も出てきましたが、子どもたちが自分たちの住んでいる町内会の成り立ちを気になっていたこと、実際に参加者が1人でもいれば、と思っていたら30人も来たということ、これは皆さんにとっても、ヒントになるお話だと思います。富谷市は、複数の団地で構成される面があることが話題に出ておりましたが、それぞれに歴史があって、もしかするとそれを比べてみると、それぞれの団地自慢みたいなものも見えてくるんじゃないかと思いました。話題もつながりますね。



## 参加者⑨

昔の話なのですが、若い頃職場で、今の若い人はあまり、わからないかもしれませんが、女性の方は早く来て、掃除やったんですね。拭き掃除と、あと掃き掃除。それについて一言、女性の方が言い出しまして、男性もやってくださいって話しをしてですね。同僚と2人で自分の部屋の掃除もやらないのに、職場の掃除やるのかねって話して、一応いつもの電車よりも10分くらい早く来てやった記憶があります。うちの娘によく言ったんですけど、私よりも年下の人が上司になって、あとそのあと、女性の人も上司になる時代が来るとよく言っていたと思うんです。今日、女性は2名の方だったわけですけど、今回のミーティング、女性の方がちょっと少ないのかなと個人的には思ったりしました。このコロナのご時勢で、うちの町内会長も言っていたんですけど、理事会とか班長会、控えてるんですけど、その中で女性の方、若い方、私みたいな高齢者も含めてですけど、なかなか発表するっていうと、控えてるみたいで、個人的には、若い人も、もう少し話してもらえばということ自分を思ってるんですね。会社にいたとき、改善改革やらないとその部門は全く発達しない、発展しないということがよく言われましたので、潰れるっていうか吸収合併されるっていうことをよく言われましたので、何とか改善改革、女性の考え方、若い年寄り関係なく良い考えをもっていますし、若い人も良い考えを持っていますので、聞きたいなとたまに思う時があります。あと、日本国内にコロナで外国人が入ってきていません。施設とか、看護師、病院もそうですけど、日本人ではやる人が少なくなっていますので、どっちにしても外国の人の方をお願いしなくちゃいけないって話になっていますので、そういう人が何年後には足りないって話で、宮城県及び富谷市にも来るはずですので、どのみち考えとかなきゃいけない時代なのかなと思ったりします。

## ファシリテーター

ありがとうございます。私のゼミは、3年生と4年生、約20人の学生で構成されていますが、半数以上が女子となっており、今日の会議にも本当は3名の学生がサポートに来る予定でした。学生や若手の忌憚のない意見は大事だと思います。女性の社会進出の話もありました。現在は、学校の出席簿の男女わけもなく、性別問わず、活発に活動していると思います。一方で、大学を卒業してからの機会の問題っていうのは、まだ差があるのではないのでしょうか。富谷市での取り組み、富谷塾やとみぷら、とみやど、それらは活動の機会の場になっていると思います。そして、多文化共生の視点も今後必要になってくるということでした。

富谷市の協働において、皆さんから貴重なお話がいただけたと思います。市民活動は、大きく、テーマコミュニティとエリアコミュニティでの活動に分けることがなされています。エリアコミュニティは、どちらかというと、地縁的なものとなります。今日の事例では町内会が該当します。今日は、町内会の皆さんから、富谷の町内会の事例も深くお話することができました。それぞれに魅力と可能性、そして課題があり、情報を共有できる仕組みがあると、市民活動の範囲で課題の解決ができることも多くあるのではないかということになりました。また、テーマコミュニティという点では、保護司の経験から、薬物とか犯罪という、こういった情報にもきちんと耳を傾けなくてはいけないというお話から、健康の話、そしてまた音楽、あるいは職場のコミュニティという話題があり、活発な議論がなされました。エリアとテーマに境界線はなく、ここでもつながりの可能性もみることが出来ました。それでは、市長の方から講評をいただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

## 市長講評

今日は限られた時間の中で大変貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。本当にお一人お一人からいただいたご意見、参考になるご意見でございまして、今後、しっかりと市政の中で、すぐできることはすぐ取り組んでいきたいと思ひますし、ちょっと時間かかる部分もありますけれど、その辺は、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。まずは参加者①さんの町内会におかれましては大変まとまりがあつて、やはり背景には日常的に成田マルシェさんとか、世代を超えて自主的に様々な活動に取り組んでいることが、退会者がいないというか、まとまりのある町内会を運営されているんだなと改めて感じたところでございまして。参加者②さんにおかれましては、まさに通称お節介おばさんという、本当に長年、体の健康や日常生活など、いろんなことに相談に乗っていただき、そのことがやはり地区にお住まいの皆さんにとっては大きな存在になっているんだなということ、改めて感じたところでございまして。参加者③さんからは、設立50年ということで、本当に歴史のある町内会で、高齢化の問題はこれまでもいろんな課題として挙げられてきたところでございまして。ただ、話にもありました、最近若い世代が入ってきてということで、確かに最近、もともとの庭がついていた家がある不動産会社さんに売買されて、そこに2世帯3世帯のいわゆるシンプルな、庭なしで、駐車場のみの小さな住宅が建てられて若い世帯がどんどん転入されてきている流れができておりますので、多分そういう影響かなというふうに思っております。実際にもっと古い地区は、ずっと高齢化が進んでいたのが、ここ最近では逆に、平均年齢が若くなって若い世代も増えております。まさにそういう循環になってきているので、これからそういう時期に入ってくるのかなというふうに思っておりますし、そのためには、そういう若い世代に選んでもらえる地域にならなければいけないということで、本市では住みたくなるまち日本一を目指してやっているところでもございまして。また、参加者④さんからは日頃から保護司として更生保護に色々ご尽力いただきまして、確かに薬物、今若い世代含めて、そういったところの意識の低下を地域の中でしっかりと共有していくということが大事だというのは改めて感じたところでございまして。また参加者⑤さんからは、とても素晴らしい活動がたくさんあるのに、その情報がしっかりと伝わっていないという、今、デジタル化が進んでおりますので、情報の共有、情報の発信のあり方も、今後町内会活動含めこういった市民活動を広げていくキーワードになるのだからというふうな、貴重なご意見をいただいたところでございまして、我々、市としてそういった機会を増やしていきたいという風に思っております。あと、参加者⑥さんにおかれましては、町内会の様々な課題、特に最近では高齢化がしている中と、若い世代が入ってきている中ということで、そういったバランスの問題などを今お話をいただいたところでございまして。ただ、若干町内会を退会する方も出ているということでございまして。あとその中でメリット、デメリットというお話もありましたけども、やはり町内会活動はメリット、デメリットじゃなくて、地域をしっかりと支えて、コミュニティ、防犯、少年非行防止も含めて、やはり必要なものだというふうに皆さん認識していただくことが大事かなと感じたところでございまして。いつも役員やそういった方が同じ活動で、メンツが同じことが課題であるというお話もいただきました。そういったところも今後、共通のいろんな課題になるかと思ひますので、参考にさせていただければというふうに思ひます。あと、参加者⑦さんからは歌を歌う会場がないということで、申し訳ありません。富谷市に文化施設がないというのは、ずっと課題には考えていたんですけども、何とか公民館などを活用していただければと思ひますし、あと交通アクセスの部分は今、地下鉄の延伸も含めて取り組んでおります。アクセスの問題は、富谷市で一番の弱点であり、課題であるというふうに認識しております。ただ、ここ最近、まずすぐにできることということで、市民バスを人口集積地域に集約させて、空白地域はデマンドに切り換えてということで、市民バスのニーズに合わせて、今、倍に増やしてや

っておりますし、交通アクセスの問題は引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思っております。参加者⑧さんからは、町内会長さんとして、地元の中学生に日吉台地区の歴史を話していただくということで、特に大変嬉しかったのが富谷市は住みやすいところなので、必ず一旦は出て、必ず戻っておいでよということをお願いしていたというのは本当に嬉しく、ありがたく思っておりました。実際に、とみここという、とみや子育て支援センターで毎年ウェルカムパーティってというのがあるんですけども、そこに私も参加しています。そうすると、かなりの割合で、実は富谷で生まれて、富谷で育って、大学なり、就職でいったん富谷を離れたんだけど、子育てを、結婚して子どもを産むにあたって、やっぱりマイホームは、富谷で子育てしたいということで、富谷に戻ってきましたという人がいらっしやいます。毎年、かなりの割合で増えている状況でございます。まさに、住みやすいまち日本一ということ掲げて取り組んでいる一つの要因でもありますので、更に子どもの段階で、地域の歴史も含めて伝えていただき、子どものときに、そういうことを頭の片隅にインプットしていただくということは、改めて大事だと感じたところでございます。最後に参加者⑨さんから、いろいろ改善改革ということで、いろんなご意見をいただいたところでございまして、特に女性活躍という部分でお話をいただいて、たまたま今日は女性が2人ということで、少なかつたんですが、富谷は、実は女性活躍推進地域でございまして、一つには、今年内閣府が発表した審議会等における女性の割合が、富谷市は全国1741市区町村の中で、第1位になりました。53.1%ということで、これは私が就任してから、いろんな審議会に参加したときに男性がほとんどだったんですね。それで、やはり若い世代もですし、男女半分半分ぐらいにして、市民の声を聞きたいと思いました。審議会等というのは市政にいろんなご意見をいただく機会なので、広くいただくためにも女性の方を増やして、どんどん参加してもらえるようにという積み重ねが、今年全国1位になったところでございます。あと、富谷塾も今200人、毎年100人から200人参加していただいております。6割以上が女性の塾生でございまして、特に子育て世代のママたちに積極的に参加していただいたりということで、そういう意味では女性活躍の自治体だというふうに思っておりますので、さらに、そこを大事にしていきたいと思っておりますし、最後に、外国人がこれから増加していく中で、そういった受け皿づくり、そういった環境も必要だということで、まさにその通りだと思いますので、その辺も含めて今後に生かしていきたいと思っております。最後に、皆さんにいろんな取組をしていただいているおかげで、富谷市は民間調査機関の高い評価をいただきました。今週、大東建託さんの街の住みここランキングで、4年連続宮城県1位、3年連続東北1位という評価をいただきました。先月は、東洋経済新報社さんの住みよさランキングで3年連続宮城県1位と、5月にはリクルート社さんが初めて行った住み続けたい自治体ランキングで、宮城県第1位ということとなりました。これは選んで言っているんじゃないので、すべて民間調査機関からの評価、発表されているもので、今、三冠を続けていただいておりますので、そういう意味では市民の皆さんに、本当に積極的に市民活動をはじめ、色んな取組に参加していただいたことが、その結果につながったというふうに思っております。

ただ、目指すところは日本一というふうに思っておりますので、引き続き皆様からのご指導、ご支援、ご協力賜ればと思っております。若干長くなりましたが、私からの感想等含めまして、お話とさせていただきます。ありがとうございました。

## 座長まとめ

若生市長、講評ありがとうございました。今、お話にもありましたとおり、富谷市がナンバーワンということで、非常に評価されたこと、改めて本当におめでとうございます。アメリカのポートランドというまちも全米で住みやすいまちナンバーワンというふうに言われていました。そこでやっぱり重要だと言われたのが、コミュニティとつながりなんですね。なのでこういった、ざっくばらんな会が多くあって、こうして皆さんが自由に話せるということが、富谷市の重要なナンバーワンのポイントだと思います。協働というのはすべての土台となるものです。今日は最初にガイドラインのお話をさせていただきました。こういったものも、皆様、ぜひPRに使っていただければと思います。皆さん、今日はコロナ禍という中で、ざっくばらんな議論、ありがとうございました。







